

## プラネタリウム年表

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

# コンピュータが描く星空

アメリカで 1980 年代に入ると、コンピュータがモニタに描く映像を魚眼レンズで映し出すデジタル・プラネタリウム「Digistar」が開発され 90 年代には日本でも公開されました。

デジタル・プラネタリウムは最新のデータに基づいた宇宙の姿を描くことができます。



Digistar II/Evans & Sutherland  
協力：釧路市こども遊学館

当初は単色の線画による描写でしたが、2000 年代には高解像度のカラー映像を映す技術が進歩し、全天ドーム映像による迫力ある番組も多く制作されるようになりました。



DigitalSky II / SkySkan  
協力：名古屋市科学館



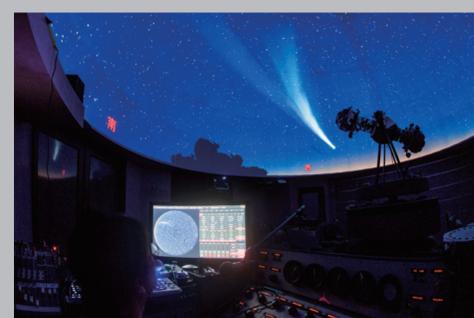
Uniview / SCISS・オリハルコンテクノロジーズ  
協力：日立シビックセンター科学館



VIRTUARIUM II / 五藤光学研究所  
協力：多摩六都科学館



Mitaka / 国立天文台  
協力：4D2U ドームシアター



StellaDome Pro / アストロアーツ  
協力：プラネターリウム銀河座